

(様式第4号)

上田市消防委員会 会議概要

1 審議会名	上田市消防委員会
2 日時	令和 3年 9月30日 午後 1時30分から午後 3時50分まで
3 会場	上田地域広域連合消防本部庁舎 3階 大会議室
4 出席者	宮島会長、池田副会長、上原(敏)委員、荻原委員、清水委員、関谷委員、箱山委員、堀内(健)委員、山寺委員
5 市側出席者	堀池消防部長、西澤消防総務課長、長谷川消防団担当政策幹、高橋総務課長補佐、峯村消防総務担当係長、福澤上田市消防団長、沓掛上田市消防団副団長、宮原上田市消防団副団長
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 2人
8 会議概要作成年月日	令和 3年10月 1日

協 議 事 項 等

1 開 会 (峯村消防総務担当係長)
2 あいさつ 堀池消防部長
3 自己紹介 上原(清)委員、大森委員、廣川委員、堀内(希)委員、宮崎委員 欠席
4 正副会長の選出 委員互選により、会長に宮島武宏委員、副会長に池田桂子委員を選出
5 諮問 上田市消防団員の団員報酬、出勤報酬及び団員定数について 土屋上田市長(代理の堀池消防部長)から宮島会長に諮問書を読み渡す。
6 議事【協議事項】
(1) 上田市消防委員会の概要について(資料番号1) ・資料に沿い、西澤消防総務課長から上田市消防委員会条例について概要を説明 質疑等なし。
(2) 上田市消防団の現状について(資料番号2) ・資料に沿い、福澤上田市消防団長から上田市消防団の現状について説明 ・以降、協議
(委 員) 退団して15年経過しているため現状は解らないが、当時は団員確保がネックである。 団員定数削減は、上田市の消防力の衰退を招くのではないかと懸念。 上田市には、総務省消防庁の消防団充実強化アドバイザーがおり、条例上も会長が必要であると認めれば出席できると規定されているので、出席してもらい、アドバイスをもらってはどうか。
(議 長) 他にも前団長等も含めて事務局と検討する。
(委 員) 市職員の入団状況はどうか。また、報酬増額ということなので、女性の入団も促進してはどうか。さらに、定員に対してだが、報酬増額は団員減少を食い止める目的だと思

うため、定数は現状維持が良いのではないか。

- (事務局) 市職員の入団状況は令和3年現在81人であり、ここ数年間は80人台を推移している。
- (議長) 定員の件についても審議する内容なので事務局と協議していく。
- (委員) 定員を削減すると、装備も削減され、消防力の衰退につながると思う。
- (委員) 無活動の団員がいると聞いているが、このような団員を何とかしたほうが良い。
- (事務局) 国から団員報酬を個人口座に支払うよう通知があり、上田市では令和2年度の団員報酬から個人口座払いに切り替えたため、実数の把握ができていることから、現在は無活動団員については、ほぼいない状況である。
- (委員) 団員の中には活動をしないで、報酬だけもらっているという団員もいると聞く。これは、頑張っている団員のモチベーションの低下につながる。また、消防団員は自治会費を免除されている地域もあるが、活動していない団員に対しても自治会費を免除し、その自治会費から消防団に活動費を支給しているということは住民にとってマイナスである。報酬引き上げは是非やってほしいが、無活動団員についても検討をしてもらいたい。
- (事務局) 無活動団員の件についても今後委員会で協議していただく。
- (委員) 近所に若い人がいないため、地域にいる女性も団員になればよい。
- (委員) 団員確保に関して、全国の成功事例をお聞きしたい。
- (事務局) 次回の委員会で提示する。
- (委員) 団員定数や報酬の件については前々から課題になっている。消防団も工夫しているが、行き詰っているように感じる。団員数が少なくなっていることについては、何らかの対策を講じなければならないと思う。報酬については、苦勞している人という面では良いが、団員確保につながるかはわからない。
- (委員) 私も退団して35年経過しているが、今の団員数を聞いてこんなに減ってしまったのかとびっくりした。私も消防団員を経験しているが、私は消防団をやっていたよかったと思っている。現在上田市内の消防団協力事業所はどのくらいあるのか。
- (事務局) 現在86の事業所に協力いただいているが、若干減ってきている。
- (委員) 企業の中には社員に、消防団に入団するなら会社は協力しないという企業もあると聞いているため、この件も何とかならないかと思う。
- (委員) 団員は勤めながら活動してくれているので大変だと思うが、私の地域では災害時に消防団が手際よく対応してくれて、地域との連携も取れていると感じている。地域性が団員を出したくても高齢化により出せない現状があるため、団員確保についてはもっと知恵を出して検討しなければならない。各地域は消防団と連携する必要があると考える。
- (委員) 昔は各家を回って勧誘していたが、今はどのような勧誘方法か。
- (事務局) 分団毎に各家を周り勧誘しているが、自治会等にも協力いただいている実態もある。ただ、時代なのか上手くいかない。
- (委員) 各家庭の生活リズムや状況も変わってきているため、報酬増額の件は今現在入団している団員には良いが、新たに入団する方達には解りにくいと思うので、全国の成功事例等を参考にする必要はある。
- (委員) 私の地域でも消防団入団者は少ない。団員を自治会の役員にして、自治会から手当てを出そうという案もある。団員は大変だというイメージと、早朝等の訓練で拘束されて大変だというイメージが強いため、団員になっての魅力づくりが必要。

協議結果：団員確保等に行いて、継続して検討することとなる。

(3) 上田市消防団員の報酬等について(資料番号3)

- ・資料に沿い、西澤消防総務課長から上田市消防団員の報酬等について概要を説明
- ・以降、協議

(委員) 年額報酬の額についてだが、交付税単価というのは国の交付税ということで良いか。

(事務局) そのとおり。

(委員) ということは、交付税との差額をどうするかということ議論することか。

(事務局) 国の交付税措置の算定方法は人口10万人ベースで583人であり、上田市の人口は約15万5千人であることから、計算すると906.12人が国の標準と定める団員数であり、それ以上の団員に対する報酬は上田市からの支給となる。この件については、次回委員会で審議いただく。

(委員) 年額報酬と出勤報酬の違いは何か。

(事務局) 年額報酬は消防団員の基本給、出勤報酬は加算部分として出勤に対する賃金である。

(委員) 年額報酬と出勤報酬を今後議論していくわけだが、費用弁償についてはどうするのか。

(事務局) 費用弁償は、ほぼ交通費であるが、災害時に会社や自宅から詰所や現場に駆け付けることを考えると、距離的にも短く、使用燃料代的にも安価であることから、全国でも支給しているところは少ない。この件について今後議論したい。

(委員) この中間報告書に対する消防団の意見はどうか。

(事務局) 全国の消防団のことなので、地域ごとの温度差があると感じているが、我々の活動も時代に合わせて見直さなければならぬと考えているところもある。

(委員) この報告書には、訓練内容のうち規律訓練をやめた方がよいということも書かれているが、危険なところで活動するには規律が無いと駄目だと思うし、組織としての活動が有効に機能すると考えるが、そのあたりはどうか。

(事務局) 委員が言うとおり、消防力を落とさないためにしっかりやっていきたい。ただ、大会を重視しての訓練は検討が必要だと考えている。

(議長) 機能別団員は現状上田市に無いが、団員確保という観点から必要だと考えるが、組織の大幅な改変になると思うが、消防団としてこの制度は受け入れられるのかなども検討するとともに、成功事例等についても次回の委員会で提示いただきたい。

今年度の審議内容は、多岐に渡るため持ち帰り、資料によく目を通してもらいたい。

協議結果：継続審議となる。

(4) その他

特段なし

7 その他

・第2回委員会は、10月13日(水)13時30分から、上田地域広域連合消防本部3階大会議室で開催することに決定する。

8 閉会(峯村総務担当係長)